

令和6年度 学校評価
自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立片柳小学校
実施日	令和7年2月4日

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	B	・学校は、米つくり体験教室や地域巡りの校外学習、坂戸高校との小高連携、地域の外部講師を招いての学習等を積極的に実施し、児童が様々な体験や深い学びのできる、特色ある学校づくりに取り組んだ。 ・多くの児童が学校生活を楽しく元気に送ることができ、上級生が下級生を思いやって仲良くできる校風が伝統的にある。校訓かたやなぎ（かしこく、たくましく、やりぬく、なかよく、きもちよく進んで）を大切にする指導を推し進めていく。 ・地域の協力者（外部講師や学習ボランティアなど）とのつながりを維持できる体制づくりを進めている。	A	・季節ごとにテーマ（昔遊び、田植え、持久走、やなぎまつり、小高連携行事等）を掲げ、学童・教師が協力して計画し完遂している。有意義で特色ある学校づくりに取り組んでいる。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	A	・災害、事故やトラブルに対して組織的に対応できるよう、避難訓練（不害者対応）やAED・救命救助訓練など、教職員研修を計画的に実施し、スキルアップしている。 ・校内でのトラブルなどについては、教職員間で迅速な情報共有手段を使い、教職員全体で対応している。	B	・すぐるを使った情報配信などで情報の共有ができているため。 ・ウサギ小屋の復旧に迅速であった。初期対応に合わせて、未然防止に向けた検討を。換気の徹底。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。（市共通項目）	B	・年間授業時間数の適切な管理、授業改善のための研修時間確保を目的に教育課程や日課表を見直したので、児童下校後の教材研究などの時間確保を前年度より多く行うことができた。また、学年内での教科担任制を全学年で実施し、より質の高い授業の実施を目指すとともに、教職員の負担感を削減することに努めた。放課後の留守番電話や、ICT機器の活用も進み、勤務時間外勤務時間が昨年度より減少できた。 ・年度途中から人出不足が生じた。来年度以降、このような状況への対応また回避できる方策を検討する必要がある。	B	・授業内容の効率化（ICT含む）は進められているが、教員の勤務体制の改善は見えづらい。 ・教員1名で20～30名の児童を観察している状況。働き方や働き甲斐の両立。 ・児童の下校後は時間を定め、留守番電話を利用して、残業にならぬよう取り組んでいる。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、主体的・対話的で深い学びのある授業をしている。（市共通項目）	B	・坂戸市の「学びづくり」研修の指導者（根本先生）に年3回（6月、7月、11月）指導していただき、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業づくりを進めることができた。 ・授業改善の研修として、教職員間で授業を見合い、研究協議（放課後30分程度のミニ研修会）を実施したが、欠員が生じてからは実施回数が減少した。また、研究テーマごとにグループをつくり計画に沿って研修を行った。 ・全国・県の学力学習状況調査の結果に基づいて授業改善に取り組むことが課題である。	B	・授業により席の向きを変えたり、難しい問題のときはグループで話し合ったりと工夫している。 ・学年が上がるにつれて、落ち着いて学習に臨む雰囲気を作り出している。 ・グループ学習で表現力、思考力の向上を互いに高め合う有意義な授業が行われている。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	B	・道徳の授業や人権教育を計画的に実施し、互いを大切にし尊重する児童の育成に取り組んでいる。 ・学級活動での話し合いのほか、なかよしタイムやクラブ、委員会活動など異学年交流の時間で、高学年児童がリーダー・まとめ役として活躍し、児童会活動も活発にできた。 ・年5回、やなぎっこアンケートを実施し、学校生活の困りごとの聞き取りを行い、迅速で適切な指導ができた。教職員皆で全児童を見る意識が高く、いじめ防止につながっている。	A	・掲示板などから、豊かな心をはぐくむ授業が行われていることを感じる。 ・子供たちのみで進行係を決めてお互いの意見を挙手して順番を待ち、他者の意見を遮らない姿勢は社会人になっても役に立つ。 ・学級会では、見守りつつも、良い意味で放任しながら主体的な意見をみることができた。 ・クラスでトラブルがあった際は、皆で話し合う時間を取ったりとしっかりと対応している。
	6	児童生徒は、時と場に応じた態度をとることができ、意欲的に学校生活を送っている。	B	・全校朝会など集団の場では全体が落ち着いて静かにできるよう意識が高まった。授業でも児童が集中して取り組んでいるよう指導していく。	B	・挨拶があまりできていない、と残念に思う時がある。 ・朝のあいさつ活動の際、挨拶をしても返事が返ってこない子が多くいる。 ・低学年ほど、明るく元気な挨拶をしてくれる印象がある。 ・「挨拶」等は返ってくることのみ期待するのではなく、諦めず進んで気長に声掛けの必要がある。 ・授業に集中力を欠いている児童が見受けられる。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のための研修や活動に積極的に取り組んでいる。（市共通項目）	A	・倫理確立委員会を定期的に全教職員で実施し、教職員事故や不祥事の防止の意識を高めた。 ・児童の指導を行う時は複数の教員で対応し、適切な指導を行っている。 ・教職員間の風通しがよく、相談しやすく、情報共有や共通行動ができた。 来年度以降も継続できるようにする。	A	・児童への指導について、教職員全体で課題を持ち、共有していることを意見交換から伝えられた。 ・体罰に関するアンケートを行うなど、定期的に行っている。

資質の向上	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切にすることを怠らない。（市共通項目）	A	・教職員は、穏やかに児童に対し、児童の思いを聴く姿勢をもって指導を行っている。 ・教職員は、担当学級以外の学年学級や特別支援学級の児童にも温かく接し、適切な指導を行っている。 ・教職員は、児童や家庭の抱えている困難の解消・軽減のために必要に応じて教育相談の機会を提供できた。（年3回の教育相談日、相談員やスクールカウンセラーの面談など）	A	・児童に対して丁寧に対応している感がある。 ・博愛と互助の精神を兼ね備えていると思う。 ・ほめること、しかること、励ますこと、諭すこととのバランス、メリハリがあり、個に応じた支援に努めている。 ・担任だけでなく、校長や教頭など教職員でしっかりと情報交換を行うなどし、児童のことを考え行動してくれている。
	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。（市共通項目）	B	・定期的に校内就学支援委員会を実施し、児童の支援計画を適切に検討できた。特別支援教育コーディネータによる教室訪問・児童観察を適切に実施した。 ・児童の特性に応じた柔軟な対応を行い、保護者と連携して、学校生活や集団の中で居場所を見つけることができるよう取り組んだ。 ・特別支援学級児童と交流学級のつながりをさらに強くできるよう取り組む。	A	・特別支援学級の様子は、ほかの保護者に支援の様子が伝わりにくいと思う。 ・児童への丁寧な対応が参観を通して感じることができた。 ・野菜の生産、販売、接客など実用的な学習に取り組んでいる。 ・個々の個性に合わせ、丁寧な対応をしている。
学習環境	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	B	・毎月の安全点検や理科の薬品点検などを適切に実施でき、不良箇所や要修繕箇所への対応が速やかだったので、教育環境が安全に整えられていた。 ・安全主任が要修理箇所の聞き取りを丁寧に行い、管理職に速やかにつなげ、修繕が速やかに行われた。 ・刃物など危険物の管理も適切だった。 ・図工室の授業後の片付けや清掃が不十分なことがあったので、改善が課題である。掲示物やチェック表などで改善を図る。	B	・災害時に地域住民の避難所に活用されているため、防災機能や耐震化はできていると思う。 ・トイレの改修をしていただけだと思ふ。 ・掲示物に季節感を味わえ、とても良い。子供たちの目線に掲示物が一致するかを検討してほしい。 ・とてもきれいに清掃されていると思う。
	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。	A	・すぐる（1学期まではマメル）を活用して、保護者との連絡を密にとることができた。また、クラスルームやホームページを活用して学校行事や学校生活の様子を紹介し、保護者や地域の方々に、学校への理解・協力・支援を高めることができた。 ・年2回の保護者アンケートを実施し、保護者の思いを共有し、学校の取組への理解・支援につなげた。 ・学校運営協議会では、授業参観や給食試食などを行いながら協議を行い、学校への理解と助言をいただいた。通学路の安全については、校区の自治会長・区長の協力をいただける活動に発展した。	A	・ホームページやすぐるを利用し、情報提供を積極的にに行っている。 ・PTAとの連携をして地域の安全に積極的にかかわっている。 ・学級懇談会や運営協議会、地域安全会議を介して、情報交換をしている。
家庭・地域との連携	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	B	・学校は、米づくり体験教室でお世話になる農家の方々や、読み聞かせ、学習支援ボランティア（地域巡り、ミシン授業等）の保護者や地域の方々に今後も広く協力をいただけるようにする。複数年間ボランティアを継続してくださる地域の方々と関係をさらに太くしていく。 ・坂戸高校との小・高連携は児童にとって学びが大きいので、今後コロナ禍で減少した取組を再構築していく。 ・不登校（傾向）の児童に対し、家庭と協力し合い、状況の改善に取り組む。 ・授業で外部講師等に協力してもらえると児童の深い学びにつながるので、校内で「地域の人材バンク」を作成していきたい。	A	・地域の職場見学や社会人とのかわり代で共生社会への予備知識を体得できていると思う。 ・稲刈り教室、交通安全教室、読み聞かせ活動、防犯パトロール等地域社会と連携し、安全の確保、教育学習に取り組んでいる。 ・隣接する学校同士で交流させていただいており、今後も積極的に交流していきたい。 ・地域との連携を図り、子供たちの見守りを積極的に行っている。
	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。	B	・校中中学校との教職員の交流は年3回なので、授業を見合ったり、意見を交流したりできる機会を増やし、児童生徒理解や指導に生かしていきたい。夏に実施した研修会では3校（桜小・桜中と）合同で行い、教職員がより深く知り合う機会となった。 ・年度初めと年度終わり（卒業前）に授業での児童観察や6年生への出前授業・中学校体験教室を実施し、小中間のギャップや中1ギャップの解消に取り組んだ。有意義な取り組みとして今後も実施していく。	B	・6年生が桜中に授業見学に行くなど、積極的に教育活動を行っている。 ・概ね登校している児童は明るく楽しく生き生きと学校生活を送っている様子。 ・学校運営協議会委員に中学校からの参加があってもいいのではないかと。 ・上級生への憧憬や憂慮が入り交じり、大きな変化となるステージをクリアするには保護者のサポートも必要と思う。
小中一貫教育						